

2015年(平成27年)

第89号

(5月1日)



発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

「人は点数で評価できない」 会長先生ご法話 ～京都の会員に語られる～



会長先生(中央)会長夫人(右)佐藤教会長(左)

4月27日、会長先生が天台宗・半田孝淳座主猊下白寿のお祝いに入洛されました。その折、ご夫妻で京都教会にご来道されました。

最初に、平井総務部長の歓迎のあいさつに続き、村上青年男子部副部長、菱田特別地区主任、佐々木壮年部員、一井特別地区主任の4名の喜びの発表がありました。



その後、会長先生からご法話、奥様からのお言葉を頂きました。最後に、会長先生ご夫妻を囲んで記念撮影を行いました。

【会長先生ご法話要旨】

「花の美しさに序列はない、点数で評価するのはやめよう」という言葉があります。花は人間の命と言えます。点数だけで人間を評価出来ません。“優しさ”は点数では表わせられません。むしろ点数の低い人のほうが優しいかもしれません。喜びの発表をされた4人の方々は人の悩み苦しみを分かち合える菩薩の精神を持っておられます。皆さまと共に仏道を歩んでいきたいと思えます。

【会長夫人のお言葉要旨】

食べ物を残さないようにしましょう。外食して、残ったものは持ち帰るようにしています。日本の食物自給率は低く、輸入できなくなれば日本人の30%しか食べられないということです。日本人が捨てている食べ物は飢えている国の人々が食べていける分くらいあるそうです。食べ物、特に主食のお米は大切にしましょう。日本人の身体は和食に合うようにできています。みんなで食べるようにしましょう。

■村上青年男子部副部長

人とふれあう時、相手をほめるように努めています。そうすることで、多くの喜びがありました。日々の生活の中で私が頂いている功德、喜びを、相手にお伝えさせて頂くよう精進します。

■菱田特別地区主任

ものごとをありのままに見る、あたたかい言葉をかける、相手をほめるということに心掛けています。常に意識して、心を整えて、喜びの世界が広がるような言葉がけを実践していきます。

■佐々木壮年部員

街頭での「佼成誌」の手渡しと下駄箱清掃を実践しています。開祖さまから「この信仰は実行の教えなのです」と教えて下さっています。これからもこの2つの実践を続けていきます。

■一井特別地区主任

教えを家庭で実践することが、地域の方たちにも認めていただき、お隣の方に入会してもらいました。その方の家にご本尊が勧請されて以来、朝夕家族一緒にご本尊さまに、手を合わせておられます。

今年の新入社員は「消せるボールペン型」……公益財団法人「日本生産性本部」が毎年新入社員の特徴を物などに例えているものです。▼消せるボールペンは、ボールペンなのに書いた字を消せるヒット商品。書き直しができ、消しゴムの力が出ないということも広く普及しています▼これについて、同本部では、書き直しができる機能ー変化に対応できる柔軟性ーを持っているが、熱を入れる(熱血指導する)と、色(個性)を消しかねないと評しています▼ちなみに、新入社員の親たちの世代が入社した30年前(1985年)は、おもわないと熱くならず、扱い方も難しい「使い捨て力イロ型」でした▼同本部の「働くことの意識調査」では、「定年まで勤めたい」と考えている新入社員は、3割に満たないそうです▼今月は新しい環境に適應できずになる病氣、五月病になることが多いと言われます。就活の苦勞を乗り越え、無事にこの時期を乗りきってほしいものです。

時事刻々

平成27年、私たちは「善き師・善き友・善き教えを信じ 育てよう若い力! 発揮しようみんなの力!」を実践して参ります。

今月のことば ～無名の人びとは国の宝～

伏見支部長 荒賀千陽

今月は、伏見支部の荒賀千陽が担当させて頂きま
す。宜しくお願い致します。

5月号の校成で、会長先生より「無名の人びとは国
の宝」というご指導を頂いております。

前段は「ベストを尽くす」です。「格差社会と言わ
れる昨今、『落ちこぼれてはなるまい』と、人に抜き
ん出て出世したり成功したりする事が、多くの人の生
きる目標になっている様な風潮もあります。ただ、
華々しい活躍をする人ばかりではありません。いわば
無名の人々が認められなかったり、企業の都合で辞めざ
るを得ない人を『負け組』と呼んだりする社会は、ど
こか間違っている気がします」と、述べておられます。

また、「よく考えてみれば、国も地域社会も、目の
前の成すべきことにコツコツと取り組む多くの無名
の人によって成り立っています。家庭を支えておられ
る奥さん方や、会社であれば社長さんを支える社員さ
んがいなければ、会社は成り立ちません。家事も含め
て、働くうえで『目の前のことにベストを尽くす』と
いう姿勢が大事です。さらに、人からの評価を気にせ
ず、自ら一所懸命に打ち込む。その時、その仕事も自
分のいる場所も、すべてが自身の人格向上を助ける舞
台になるのです」と教えて頂いております。

伏見支部の今年の実践は「どんな時も笑顔で『はい』
『ありがとう』『ごめんなさい』と言葉に出す」そして、

「目の前の人を大切にし、相手に寄り添って行きまし
ょう」と、させて頂きました。

後段の「布施の心」では「何よりも『人の役に立て
て嬉しい』という喜びが、日々を支える力となり、自
信と誇りを持って生きる『張り』や『生きがい』につ
ながっているのです。『人の役に立てて嬉しい』という
思いは、『布施の心』(人に施しめぐむところ)です。人
さまの喜びが自分の喜びとなり、自信と誇りを持って
生きられるのです。『布施の心』は、固定観念や自我の
縛りを解き、持ち前の価値を発揮できるのです」と教
えて頂きました。

私は今月、お陰さまで誕生日を迎えさせて頂きます。
毎日、ご供養のあとで「お父さん、お母さん、生んで
頂いて有難うございます。育てて頂いて有難うござい
ます。法縁を結んで頂いて有難うございます。」と、感
謝の言葉を言わせて頂いています。

昨年、伏見支部の支部長のお役を頂きました。「人さ
まのために尽くそう」という、布施の大切さを教えて
頂き、自分自身のことを改めて見つめなおすことが出
来ました。人さまのために、この身を使わせて頂きた
いと願わせて頂きました。この気持ちを忘れず、自分
の今の場所、立場で和顔愛語を大切にし、人さまに喜
んで頂けるよう、精一杯精進させて頂きます。

合掌

青年婦人部だより 「ちょっといい話!!」

～亀岡支部 婦人部長 谷口記子さん～

今年の1月17日の「阪神淡路大震災20年慰霊式
典」に参加させて頂いた時に、光祥さまから「いま出
会う、一人ひとりの出会いを大切に、心を整えて暖か
いふれあいができるように、意識を持って人と出会っ
ていくことが大切」と教えて頂きました。

自分の生活を振り返ってみると、病院勤務のため患
者さんと接する機会が多いのですが、健康な人に比べ
ると身体的にも精神的にも弱っておられ、不安定な心
身状態の方も少なくありません。時には心ない言葉を
かけられることもあり、そんな時は「患者さまは、不
安定になりがちなので仕方ない・・・」と割り切って
いました。

でも最近は、光祥さまに教えて頂いた「心を整えて

暖かいふれあいができるように意識を持っていく」こ
とや、「患者さまの心に寄り添っていきたい」というこ
とを意識して、患者さまと接するように心がけていま
した。

すると先日、ある患者さまの家族の方が私を見るな
り涙され「顔を見るとホッとします。いつも丁寧な話
を聞いて下さり嬉しいんです。有難うございます」と、
言って下さいました。喜んでもらえることが、私自身
の幸せでもあることを実
感しました。このように、
幸せを感じていける人生
を、これからも積み重ね
ていけたらと思っていま
す。



花まつりに子供たちが大集合！ ～お釈迦さまのお誕生日をみんなで祝った～

4月5日、教会法座席において花まつりが行われ、多くの少年部員が参拝し、にぎやかな楽しい式典になりました。

1部の式典では子供たちが副導師、脇導師、太鼓を務め読経供養、奉献の儀、稚児賛嘆文奏上の後、教会長による灌仏、新1年生の紹介がありました。紹介では好きな食べ物、好きな動物、ランドセルの色、将来の夢などを発表し、会員さんから温かい拍手が送られました。

佐藤教会長はお言葉の中で「お釈迦さまのような人になって下さい。それは人が悲しむときは一緒に悲しめる人、人が喜ぶときは一緒に喜べる人になって下さい」と結ばれました。

2部ではお釈迦さまの紙芝居を見た後、けん玉、魚釣り、おりがみ、あやとり、輪投げのコーナーに分かれて、子供たちは法輪クラブの皆さんから昔の遊びを伝承されました。



祇園祭曳き手ボランティア説明会 ～山鉾巡行へ準備始まる～

4月11日、公益財団法人モラロジー研究所・京都出張所において今年の祇園祭ボランティアの勉強会及び説明会があり、京都教会青年部の代表者も参加しました。

勉強会では山鉾連合会理事長吉田孝次郎氏の講演があり、戦後直後から食べる物もない中でも山鉾装飾品の

展示会を行った先人の努力を偲ばれました。また昨年、150年ぶりに大船鉾が復活出来たことや49年ぶりに後祭が復活出来たことが町内一同大変活気に沸いたと報告されました。

説明会では今年のスケジュールが発表され7月17、24日の山鉾巡行に向けての取り組みを確認しました。



京都明社総会を開催 ～若い世代にバトンタッチへ～

4月25日、京都教会に於いて2015年度京都明るい社会づくり運動の総会が開催されました。

立正佼成会京都教会の佐藤顧問も出席し、総勢22名が参加する中、冒頭、鈴木委員長が『昨年は全国集会在京都で開催され、大変素晴らしい一年とな

った。今期は、引き続き若い人達の育成を意識していきたい。それに準じて、中央明社から新たな人材が就任することになり、これからも、未来を意識した活動としたい』と挨拶しました。

続いて終始、活発な議論が交わされ、無事総会は終了しました。



イスラームについて理解を深めた ～かめおかこころ塾にて～

4月11日、ガレリアかめおかにおいて「かめおかこころ塾」が開催されました。今回は、大本本部国際愛善宣教課主幹の田中雅道氏による「平和を求めるイスラーム ～私のシリアの友人たち～」と題し講演が行われました。

田中氏は、大本代表4名の方と共に平成3年4～5月の25日間、イスラーム教指導者アーマド・クフタロ氏を訪問しサウジアラビアの聖地メッカへイスラーム教徒以外で初めて巡礼した経験をもつ。イスラームは残虐なイメージがあるが、みんなあのような人たちというのは誤解であり、現在のISはイスラームではないと説

明。イスラームとは「神さまのみ心に従う」という意味で、正式にはイスラーム。唯一絶対の神（アッラー）を信仰し、預言者であるムハンマドを通して人々に下したとされるコーランの教えを信じる一神教で、世界的にもキリスト教に次ぐ2番目に多くの信者を持ち、16億人の信徒があるとされています。

イスラームの信仰とは六つのことを信じ、五つのことを行います。またジハードを聖戦と訳すことに間違いがあると指摘し、本来、己と戦う（奮闘、努力すること）であると説明されました。



京都佼成議員懇話会 和やかに開催

4月25日、早朝より議員懇話会が開催され多くの参加があった。植田幹事長より食事会で最初の30分は席を立たず食事を頂き、最後の10分で残ったものをしっかり頂く3010運動の紹介や起床時の洗面は洗面器1杯分の水でまかなうように心掛けていることを披露され、参加者にも勧められた。



5～6月の主な教会行事

5月10日(日)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(金)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
17日(日)	9:00～	こころひとつにフェスティバル
6月1日(月)	9:00～	朔日参り・布薩の日
4日(木)	10:00～	開祖記念館10周年記念講演会

●メッセージ

ネパールでM7.9の大地震が発生し多くの死傷者が出ており、いまだ被害の全貌が見えていない様子です。地震大国の私たちも他人事ではありません。生存率が一気に下がる72時間を超えても、助かる方がおられることから一刻も早い救出を願うばかりです。